

1. **PERSON** 江戸前期の儒学者で、「古学派三人衆」。「古義学」の祖。町人出身で、京都堀川に古義堂を設立。 1
2. 伊藤仁斎が、特に『論語』と『孟子』の「古義（もともとの意味）」に直接学ぶことを主張した古学派の儒学。 2
3. 伊藤仁斎が、孔孟（人倫の道）の根本思想として主張し、自然な人間性を肯定することによって、儒学を日常生活の教えとして庶民化。 3
4. 伊藤仁斎が、仁と愛の実現のための心情とし、忠（自分をいつわらない）と信（他者をあざむかない）の実践において現れるとしたもの。 4
5. **PERSON** 江戸中期の儒学者で、「古学派三人衆」。「古文辞学」の祖。 5
6. 荻生徂徠が、「古文辞（儒学の古典中の文章）」に直接学ぶことを主張した古学派の儒学。 6
7. 荻生徂徠が説いた政治の手段で、「先王（堯くぎょうや舜などの孔子以前の聖人）」が制作した「安天下の道」。朱子学の説く「天地自然に備わる道」や、個人の修養中心の従来儒学を批判し、経世済民の重要性を主張。 7
8. **BOOK** 荻生徂徠の主著で、「述べて作らず、信じて古（いにしえ）を好む」と記し、道徳や政治は先王の道を手本にする（わきまえる）べきと説く。 8
9. **PERSON** 江戸初期の儒学者で、「日本陽明学の祖」。琵琶湖の畔に藤樹書院を開いた「近江聖人」。 9
10. 中江藤樹が、人倫の根本とした道徳。彼自身の人生の決断（27歳で武士の身分を捨てて故郷の母に尽くしながら庶民の教育）にも大きく関与。 10
11. 中江藤樹が、全て人間関係において（上下関係でも）、互いにまごころで親しみ合うことを心の本質としたもの。朱子学の説く表面的な敬（つつしみ）を批判し、内面的で万人に共通する道（特に孝）とした。 11
12. 江戸時代の日本で、藩士の子弟が朱子学などを学んだ藩学。 12
13. 特に江戸時代の日本で、主に民間の儒学者が、後には洋学者や国学者も任意に開いた学校。庶民にも開かれた。 13
14. 特に江戸中期以降普及した私塾。町人の子弟に対して「読み・書き・そろばん」を教えた。語義：「寺子（寺で学ぶ子ども）」→後に「寺の小屋」とも 14
15. 幕末に朱子学派の水戸学を中心に起こった幕府批判の思想。語義：天皇をとうとぶこと 15
16. 幕末に陽明学派を中心に起こった幕府批判の思想。語義：江戸幕府を倒すこと 16
17. **PERSON** 幕末の志士で長州藩士。陽明学の影響が強い。松下村塾の主宰者となり幕末明治の指導者を育成。 17

T. Q. 「江戸時代の庶民にとっての仁斎と藤樹とは？」

T. A.

仁斎は孔孟の根本的な考え方である仁と愛を主張し、それを日常生活の教えとして庶民化した。藤樹は琵琶湖畔に藤樹書院で庶民に人道を説いたため、近江聖人と呼ばれ、彼はそこで孝は人倫の根本であると説いた。どちらも愛について庶民に分かりやすく説いた点が共通している。